

『特別の教科 道徳』に関する『チーム学校』としての授業づくりの実践

深川市立深川小学校 学級数 12 (校長 大野 伸仁)

I 実践テーマの趣旨

本校は、「チーム学校」として組織的に道徳科の授業づくりの実践を積み重ねてきた。

その成果として、本校の児童に不足しているとされてきた「自分の思いを伝える」力の育成という課題が、この3年間で改善され、自分の考えをペアやグループによる交流の中で深め、様々な気づきを全体で共有するという「考え、議論する道徳」の授業スタイルを全学年・学級で統一した。

II 実践の概要

1 今年度の研究内容・授業実践について

(1) 道徳科における授業づくりの推進

今年度は、各教科と道徳科の学習内容や内容項目等の横断的なつながりを探り、研究を深化させることを目標とした。

< 道徳部会の研究の重点 >

研究テーマ「教科書の内容を足がかりとしたさらに広がりのある授業への取組」

【これまでの成果】

- ① 道徳科の授業スタイルの確立
- ② 児童同士の関わり合いによる思考の深化
- ③ 評価の考え方の統一化

【課題への改善策】

- ・ 内容項目の検証及び日常生活との結び付き
- ・ 目的を明確にした授業展開
- ・ 振り返りの充実

(2) 特設授業の公開

本校が培ってきた道徳科の授業スタイルを参観者に提案することを目的として、令和元年10月21日に、北海道道徳教育推進校事業として道徳科の授業公開及び実践発表を行うとともに、鈴木賢一氏(愛知県あま市立七宝小学校教諭)による、「きたものがたり」を活用した師範授業を公開した。

< 参観者の声 > (アンケートから)

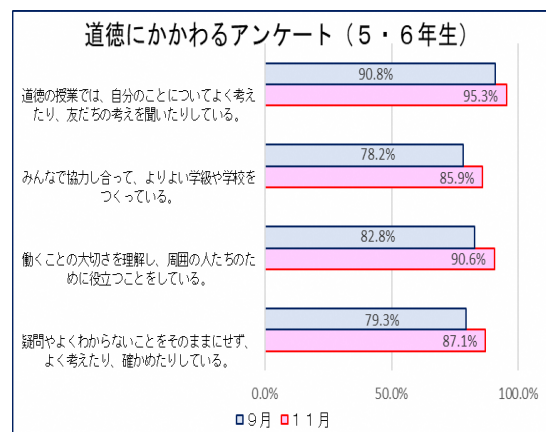
- ・ 自力→自由交流→全体での話し合いという流れが定着していて、何度も子どもたちの意思確認をしながら進めていたのが良かった。
- ・ 自分の考え→資料→自分の考えという流れが分かりやすかった。黒板に考えを残しておく必然性を子ども達も感じていた。



【師範授業公開の様子】

III 取組の成果と課題

- 「道徳にかかわるアンケート」を第5・6学年で9月と11月に実施し、右図に示した4つの項目で向上が見られた。
- 一単位時間の授業の中で、伝えたいことを焦点化した授業を全学級で実践できた。
- 「きたものがたり」を活用し、テーマを明確にして発問を焦点化した授業を全学級で実践できた。
- 児童の実態や、授業者の「何を伝えたいか」という思いに応じて、授業者が教材分析を深め、指導観を明確にする必要がある。また、児童の思考の変容を見取る方法について、今後も授業研究と実践交流を進める必要がある。



【向上が見られた道徳にかかわるアンケート】